

第2回 飛島村総合計画審議会 議事録

開催日	令和4年3月16日(水)
開催場所	飛島村中央公民館 3階 視聴覚室
開 会	午後2時00分
閉 会	午後3時55分
委員数	22名
出席委員	18名
出席者	会 長 三浦 哲司(名古屋市立大学 人文社会学部 准教授)
	副 会 長 村上 利伸(区長会 会長)
	委 員 伊藤 秀樹(商工会 会長)
	委 員 神山 茂代(商工会 女性部 部長)
	委 員 村上 雅之(土地改良区 理事長)
	委 員 多田 裕美(教育委員 代表)
	委 員 久野 時男(老人クラブ 会長)
	委 員 渡辺 良和(社会福祉協議会 会長)
	委 員 佐藤 克行(海部南部消防組合 総務課長)
	委 員 梶田 祐亮(飛島学園PTA 会長)
	委 員 石神 なつき(代理)(飛島保育園 父母の会 会長)
	委 員 佐藤 磨実(第一保育所 親の会 会長)
	委 員 門野 堯子(ボランティア団体 代表)
	委 員 伊藤 善啓(あいち海部農業協同組合 飛島支店長)
	委 員 服部 伸一(名古屋港西部臨海地帯企業連絡協議会 会長)
	委 員 桑山 幹根(名古屋港管理組合 企画調整室 担当課長)
	委 員 伊勢村 優樹(中日新聞 蟹江通信局 記者)
	委 員 佐野 徹(副村長)
	幹 事 田宮 知行(教育長)
	幹 事 中野 晃(会計管理者)
	幹 事 加藤 義彦(総務部長)
	幹 事 福谷 晶(開発部長)
	幹 事 中島 利文(民生部長)
	幹 事 奥村 義明(教育部長)
	事 務 局 早川 宗徳(企画課長)
	事 務 局 岩田 有加(企画課主任)
	事 務 局 荒尾 大地(企画課主事)
	コンサル 本間 裕之
欠 席 者	委 員 平野 和実(農業委員会 会長)
	委 員 立松 佳憲(商工会 青年部 部長)

委員 早川 盛行（民生委員・児童委員協議会 会長）

委員 中島 崇（消防団 団長）

※敬称略

- 議 事 (1) 第5次飛島村総合計画 基本構想素案について
(2) 第4次飛島村総合計画及び飛島村地方版総合戦略の進捗状況について
(3) その他
- 資 料 第5次飛島村総合計画策定にかかるアンケート調査結果報告書（A-1）
第5次飛島村総合計画策定にかかる「とびしま・未来づくりワークショップ」実施報告書（A-2）
意見収集ボードの設置・実施結果（A-3）
第5次飛島村総合計画 基本構想 素案（B-1）
むらづくりの目標（骨子）（B-2）
第4次飛島村総合計画 総括（C-1）
飛島村地方版総合戦略 令和2年度 評価検証（C-2）

【議事録】

（午後2時開会）

1. 開 会
2. あいさつ
3. 議 事

佐野委員（副村長）より、庁内における計画素案の策定経過及び概略を説明。

(1) 第5次飛島村総合計画 基本構想素案について

- ①第5次飛島村総合計画策定にかかるアンケート調査結果報告書（A-1）
- ②第5次飛島村総合計画策定にかかる「とびしま・未来づくりワークショップ」実施報告書（A-2）
- ③意見収集ボードの設置・実施結果（A-3）
- ④第5次飛島村総合計画 基本構想 素案（B-1）
- ⑤むらづくりの目標（骨子）（B-2）

事務局より、資料①～③に基づいて説明。

【質疑応答】

村上（雅）委員：土地改良区の事業に関連することで排水対策がある。アンケート結果報告書においては8pが例に挙げられるかと思うが、この箇所は我々の担っている排水対策が該当するのだろうか。当該箇所の記述では、関連するようでありながら離れているように思う。

⇒事務局：土地改良区様への具体的な要望というよりは、行政の取組を主としながら、アンケート調査票に記載したように「上下水道の適正管理」「水

路の整備」「雨水排水対策の推進」という抽象的な問い方をしたものである。

村上（雅）委員：この問い方だと上下水道と排水対策を問われているが、まったく違うもののように感じる。我々の事業だと排水はU形排水溝に流れる水で、さらには上水道や下水道などキリがないが、我々の観点から問うて欲しいように思う。U字溝からの排水対策について住民がどのように考えているかどうかではなく、事務局がどのように考えているかを確認したい。

⇒事務局：上水道や下水道、排水対策の違いについては、理事長のおっしゃる通りである。この設問では、アンケートの構成上、総合計画の枠組みを踏まえながら「防災」と「上下水道・排水対策」のようにインフラ全体として括ったものである。今後、基本計画を策定する中で、どのように取り組んでいくという方向でクローズアップしていく。そして当然、排水対策については防災の枠組みに含まれるものとして捉えている。

久野委員：現段階の提案の中には、財政的な面については入っていない。気になるのはこれから先、65歳以上の高齢者が多くなること。これは財政に対する比重が大きくなっていくものである。そういった面についての対策、経費の支出についてはいかがか。この状況を捉えていく中で、こういった推測は財政のことについて根本から大きく揺るがすのではないかと思う。そのため、やはりこの点については入れておく必要があるのではないか。数字を入れておくことは重要で、住民に対して大変な圧迫を強いるのではないかと思う。

⇒事務局：ご指摘の通りかと思う。アンケートに財政の質問は設けていないが、事務局としては当然に、財政を重要視しているので、財政に関する計画への記載はポイントとしておきたい。

引き続き、事務局より資料④・⑤に基づいて説明)

【質疑応答】

三浦会長：「防災リスク」という表現よりは、「災害リスク」の方が適切だとは思うが。

⇒事務局：表現については、ご意見をふまえて検討させていただく。

【欠席委員の意見】

ここで、欠席された平野委員からの意見について事務局が代読
平野委員：空き家対策について

現状、飛島村では20件ほどの農家住宅を含む空き家があり、1軒当たりの敷地面積が約1,000㎡前後であろうかといったところ。土地の入手・開発は行政に委ねるが、分割して住宅開発をすることを提案したい。前回、渚地区で農地収用によって住宅開発されたが約15,000㎡の広大な優良農地が使われた。飛島村の人口増加策に反対するわけではないが、農業委員会会長の立場から農地減少を最小限にとどめたい。空き家整理とともに住宅開発に置き換えれば、防犯・鳥獣害対策になる。加えて、電気・水道・下水などのインフラもほとんど問題なく施工できる。農地が転用されやすい状況の中、優良農地は、防水・防災・環境の面からも重要な役割を担っているため、ぜひ検討いただきたい。

⇒事務局：空き家対策は全国的に問題となっているところであり、本村における総合計画の策定上も貴重な意見として捉えていきたい。

伊藤（秀）委員：アンケートの実施によって、村に対しての状態が把握できたように思う。64pでは働く場所が多いという結果が出ている一方で、103pでは移り住みたいと思う人が少なかったりと、矛盾しているように思う。そのような中で言いたいのは、将来像が見えないということ。現状がこうであるというようなことは分かったが、これらをどうしていくのか、どうしたいのかのというのは、皆が聞きたいところかと思う。

飛島に魅力を感じない、商店を使ってくれない、しかしそもそも勤労者のように生活環境がない人にとっては、興味はわからないもののように思う。飛島に魅力があれば自ずと人は集まってくるのではないか。

⇒事務局：具体的な話は、会長からも説明があったように基本計画の中で展開していくものである。既に事務局の中では300ほどの事業案を検討している。7月に予定している審議会で提示する基本計画の中で、基本構想を具体化するための施策を説明させていただく。

村上（雅）委員：具体的な話は次回のお楽しみということではあるが、現段階で方向性を示してもらっている中で、全部の取組を均等的に、行政で同じように成し遂げようとしているのか、あるいはある程度の重点についての目星があるのかないのかについてはいかがか。網羅的なところがあれば最高だとは思いますが、それは難しいと思う。村の独自性を押し出すのであれば、1・2点に絞って推し進める必要があるのではないかと思う。

⇒事務局：基本構想では「むらづくり4つの基本政策」を掲げており、これを具体化すべく基本計画が位置づけられる。加えて第5次計画・基本計画の

中では、重点施策を地方創生の枠組みの中で捉えながら、重点施策を絞り込んでいく方向を考えている。

⇒三浦会長：事務局より発言のあったところではあるが、行財政については取組が多く分野にわたる中、資源が限られているのが現状である。メリハリをつけることが重要である。「あれもこれも」という従来の考え方ではなく、「あれかこれか」という考え方が行財政にもつながってこようかと思う。

桑山委員：名古屋港管理組合という港湾管理の立場から、港湾計画というハード整備の計画を10年に1回立てている。第5次飛島村総合計画は基本構想と基本計画、実施計画の3層構造ということである。第4次計画は2層構造だった。現状は第5次計画に向けてさまざまな取組を進めているが、そこに加えて既存の第4次計画をフォローアップしながら検証を進めていただければ、第5次計画の現実味も増すし重点も絞られてくるかと思う。

⇒事務局：第4次計画の総括についてはC-1、C-2資料において、どこまで達成できたかというところをお示ししているが、その点も踏まえながら次期計画につなげていきたいと考えている。

伊勢村委員：隣の弥富市でも委員を担当している。意見として聞いてもらえれば。弥富市でも総合計画が作られたが、駅前の開発について多額の税金がそこにつき込まれるということで市民が2つに分かれて対立した。計画に採択されており、市民の納得も得ているところでの反対意見が出てきたという状況であった。今回、飛島村では「みんなで作るとびしま」をうたっている。在勤の方から学園の生徒まで、幅広く意見を聴取しているとは思いますが、将来的に対立も出てくる可能性は否めないかと思う。周知を最大限進めてほしい。

もうひとつ取材の観点での質問ではあるが、飛島村では、ふるさと納税の寄付額が1件と非常に少ない。昨年もそうであったかと思うが、村としての返礼品の少なさもあるかと思う。村としての意気込みやスタンスについてお聞かせ願えれば。

⇒事務局：1点目については、パブリックコメントはもとより、できる限り情報開示に努めていきたいと思う。2点目については、総務部長が同席しているので、そちらからお答えする。

⇒総務部長：ふるさと納税の制度そのものに対して何かあるから、取組を押し進めていないという話ではない。基本構想でも説明したが、村の魅力を高めるための取組のひとつとして活用していきたいと考える。

伊勢村委員：村長のお考えはいかがか。

⇒村長：ふるさと納税については、返礼品がないことがやらない理由になっていたところもあるかと思う。しかしながら企画課で商品開発も進めている。活気と魅力のあるむらづくりを進めていく中で、今後どうしても必要になってくると思う。引き続き、商品開発を進めるとともに、村に合った返礼品を検討していきたい。

伊勢村委員：学園アンケートの中でも「身近に働けるところがない」という意見が18%ほどあったかと思う。港に行けばたくさん企業があるということを知らないのではと思う。村内の人も同様に知らない可能性は十分あるので、互いに知らないという話の中で、ふるさと納税も活用して周知を広げることができればと思う。

⇒三浦会長：ふるさと納税は、返礼品が目的になりがちであるが、今のやりとりでもあったように、コミュニケーションの手段であるとか入口としての活用や可能性を模索いただければ良いのではと思う。

服部委員：企業や村内企業従事者も住民に含まれるという考えで構想をつくっていただいているのはありがたい。勤労者アンケートをみると、概ね企業としては立地して良かったという意見ではないかと思う。ただ、問題としては通勤に際しての不便さや公共交通の問題かと思う。これは、非常に難しい問題で、鶏が先か卵が先かの議論になりがちだが、アンケートをとると実際は車で通える人しか採用していない。この問題を無理して積極的に進めることは賛成ではないと個人的に思うが、将来どういう方向に持っていくのか、魅力ある飛島を実現するには避けて通れない問題であると思う。他の計画の要素との兼ね合いもあるかと思うしリンクしてくるかと思う。これについては避けずに、問題に向き合って検討を進めていくべきだと思う。

⇒事務局：服部委員には総合計画審議会のみならず、バスの地域公共交通活性化再生法定協議会でも同様の意見をいただいております。通勤手段の確保については、村の重要な課題と認識して計画策定を進めていきたい。

佐藤（克）委員：多数のアンケート集計お疲れさまでした。むらづくりのテーマを「活気」「魅力」「人」としている中、アンケート結果では「住みやすい」「どちらかという住みやすい」とか、「愛着がある」とか、「住み続けたい」という意見が過半数以上であることが確認できた。若い世代から高齢者までの中で、女性の活躍推進については何か意見が寄せられたか。当消防組合でも女性職員がゼロで、愛知県下でもゼロであり、女性の活躍推進に向けた取組の重要性は認識しているところである。女性職員の採用や子育て支援を進めていく中で、働きやすい環境整備を進めていく必要もあるかと思う。消防団など地域の取組が、地域の活性化に

結び付くところもあろうかと思う。

⇒事務局：アンケート結果において、女性活躍の推進について言及したものは、特に見受けられなかった。

佐野委員：目玉施策や財政の記述についての意見を頂戴する中で、300以上の事業案があると申し上げた。現時点でも再来年度からの10年間の計画期間の中で、実施時期が前半・中盤・後半なのか、あるいは10年以上かかるものなのかといった期間的な問題、そして事業予算や人的リソース、その実行にあたっての課題について書き出しを進めている。今後はこれを具体化して事業の優先順位や実現性について見定めていきたい。

次回は、災害・活気・魅力・人づくりについて掲げている中、最大のテーマを示すことができると考えている。またそれに向けて、どれだけの経営資源が必要か、飛島村の財政力で実現できるのかについての検討になるかと思う。次回はその点についてお示しできるよう努力したい。

冒頭でも申し上げたように、できる限り具体的にやろうという視点でこれまでやってきた。全体が総花的に見えるかもしれないが、ひとつひとつが打ち上げ花火にならないよう、強弱がつけられるようになれば、皆様から具体的な意見をいただけるかと思う。引き続きご指導・ご鞭撻をいただければと思う。

三浦会長：それでは基本構想の素案について承認いただけるか。承認であれば挙手いただけるか。

<挙手多数>

三浦会長：ありがとうございます。それでは挙手多数ということで承認とさせていただきます。引き続き、宜しく願います。

(2) 第4次飛島村総合計画及び飛島村地方版総合戦略の進捗状況について

①第4次飛島村総合計画 総括(C-1)

②飛島村地方版総合戦略 令和2年度 評価検証(C-2)

事務局より、資料①～③に基づいて説明。

【質疑応答】

村上(雅)委員：資料①5pについて「新たに整備した歩道延長」の設定根拠はどうか。県道の歩道の危ないところについても目が向いており、それが該当するかどうか。

⇒開発部長：これは村道のみ歩道延長として目標値を掲げている。県道は愛知県の事業であるので、独自で目標値を定めることはできない。今後は

それも含めていきたい思いはあるが。

村上（雅）委員：村道にもいろいろある中で、その設定根拠については定めているのか。

⇒開発部長：いわゆる幹線道と、そこに付随する道路は以前より定めている。それも含めた計画である。そうではないところで目標値を定めている計画もある。

伊勢村委員：本資料の説明の中ではないが、中古車解体の騒音についての観点からC-1の中で評価されていたりするのか。

⇒事務局：13pでは公害苦情改善率として掲げている。あくまでも公害苦情の括りである。アンケートの意見では中古車事業者の従業員に対して、ゴミ出しについて指導してほしいという意見があったが、第4次計画策定の時点では問題が顕在化していなかったと思われる。

伊勢村委員：これを減らすために今後どうするか。騒音以外にも、火災も含めて消防も出動件数が最近増えている。その観点から火災を抑えていくとか、何かあればお話しいただきたい。

⇒事務局：現段階では、基本計画策定に向けて、居住環境について住民の幸せは何かという観点から検討している。指摘の問題は重要なところであるので、具体的に基本計画を定めていく中では重要な点となる。

伊勢村委員：資料には関係ないが、弊社にも騒音や火災の原因となるごみの不法投棄等についての連絡が多い。村でも同様な意見が寄せられているようであれば、何かヒントが得られるのではと思ったため発言した。

⇒三浦会長：庁内外の検討が進んでいるところではあるが、取りこぼしのテーマもあるかもしれない。委員におかれては日常生活や日々勤務されている中で、お気づきの点があれば事務局に意見をいただければと思う。

(3) その他

委員、事務局ともに発言なし。

6. 閉 会

(午後3時55分)

以上